京都の音楽を、読む。

音読（おとよみ）

TAKE FREE
第15号
2020年12月31日発行

コロナ禍で危機的状況にある音楽の現場を救うために、

一般社団法人表現支援協会を立ち上げました。

京都のライブハウス・クラブの現状レポート
livehouse nano、UrBANGUILD、KYOTO MUSE、
磔磔、拾得、CLUB METRO、WORLD KYOTO、
Chambers

アーティストインタビュー キセル
「今できる形で、
音楽の火を絶やさないでいたい」

京都のライブハウス・クラブを救うための
Yahoo!ネット募金がスタートしています。

詳しくは
裏表紙へ

約3年ぶりの発行となりました。前号の発行からずいぶん長い時間が空いてしまったことを、まずお詫びさせてください。申し訳ありません。

そして今号の特集は、一般社団法人設立と募金開始のご報告となります。2020年に入ってからのコロナ禍の影響により、私たちは自身の生活がどのように変わっていくのかわからないぼんやりとした不安のなかで、その時に自分がベストだと思う方法を選択するしかなかったように思います。働き方、住む場所、好きなもの、考え方、信じるもの、そうした生きていくことについてのさまざまなことが、この1年で大きく変わった人が多いのではないでしょうか。

春以降の情勢で、音楽を始めとするさまざまな文化活動が、壊滅的な状況に追い込まれていくさまをじっと見ていました。そんな状況を打破するため、たくさんのクラウドファンディングが立ち上がり、政府からの助成金も給付されました。しかしこの秋から再び新型コロナウイルスの感染者数は増加し、音楽の現場はますます厳しい様相を呈しています（もちろんこれは音楽の現場だけでなく、日本経済全体の問題ですが……）。

そんな今、また春頃のようにたくさんのクラウドファンディングを立ち上げることは、もうできないのではないかと感じています。だからこそ私たちがこのタイミングで寄付を募ることに意味と意義があると考えています。

ライブハウスやクラブは、風評被害にさらされやすい場所です。もちろん誤解を受けやすい理由も歴史も理解しています。しかし、ここが社会にとって必要な場所であると強く感じています。まずここには社会におけるヒエラルキーが存在しません。誰もが自由に音楽を鳴らし、それを聴き踊り、そこにいるすべての人が楽しみそれを自分だけの方法で表現しています。自由と多様性が成立している稀有な場所です。

なお今回は私たちの活動拠点の限界で、支援先を「京都」に限定していますが、もし同じような取り組みを他の地域でもやっていきたいという方がいらっしゃれば、ぜひ一緒に取り組んでいきたいと思っています。私たちはここから全国的なネットワークができることを望んでいます。

大切な場所をこれからも守っていくために、どうかみなさんの力を貸してください。

音読編集長　田中郁后

コロナ禍で危機的状況にある音楽の現場を救うために、一般社団法人表現支援協会を立ち上げました。

Vision

「表現」を守ることで、人々が自身の感情を肯定し、他者の感情を尊重できる、自由・対等・多様な世界を目指します。

Mission

個人・団体、表現の発表を行う場所等の活動や取り組みに対して、資金や情報の提供を行い、継続的な活動を支援します。

Statement

なぜ、この社会に「表現」が必要なのでしょうか。

私たちは“感情”の表出し現れた行為が「表現」であると考えています。一人ひとりが自身の感情に耳を傾け、肯定し、それを他者へと伝えていく。そして自身の感情同様、他者の感情も尊重し、誹謗中傷ではなく対話を行う。その始まりやきっかけのひとつとなるのが「表現」です。

自由であること、対等であること、そして多様であること。「表現」は、社会や人々にそれらをもたらすのに必要不可欠なものであると考えます。

私たち表現支援協会は、社会からそんな「表現」をなくさないよう支援していく団体です。
社会情勢の変動や経済的要因など、さまざまな理由から表現活動が続けられなくなった方々を支援し、社会から「表現」の灯火を消さないように尽力いたします。

京都のライブハウス・クラブの現状レポート

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、数々のライブハウスやクラブが窮地に立たされました。営業時間や形態を変えることを余儀なくされ、オープンすらできない日々も続き、新しくライブ配信やグッズ販売が展開されながらも、今なお厳しい局面にあります。
これまで音楽との出会いを与えてくれた場所のために、今私たちにできることは何か。そのひとつは「現状を知る」ことではないでしょうか。京都の8軒のライブハウス・クラブに、コロナ禍における現状をレポートしていただきました。

質問

Q1. 新型コロナウイルス感染拡大による影響は、具体的にどんなものがありましたか?

Q2. コロナ禍における一番の課題は何ですか?

Q3. コロナ禍における新しい取り組みや挑戦していることがあれば、内容を教えてください。

Q4. 今後、ライブハウスやクラブのあり方は変化していくと思われますか。また、どのように変わっていくと思われますか。

Q5. 今、私たちユーザーがライブハウスやクラブのためにできることは何でしょうか。

livehouse nano

京都市中京区西洞院東入ル二条西洞院町632-3
TEL:075-254-1930　定休日:月曜日
http://livehouse-nano.com/
http://livehouse.thebase.in
https://www.youtube.com/c/livehousenanosince2004

A1. 3月の16周年月間イベントの2/3を延期せざるを得ず、その後の通常営業も不可能、事業をライブ配信に振り切らざるを得なかった。

A2. 自分が感染しないこと、というより、nanoが感染元にならないようにできる限りのことに努めること。

A3. オフィシャルYoutubeチャンネルにおけるライブの生配信、オフィシャルwebショップにおけるグッズの通販。

A4. 変化していくと思います。いつかは元に戻るとは今は考えないようにしています。行き過ぎた認識だとは勿論思いますが「(コロナに限らず)ウイルスに感染しやすい場所」という刷り込みが既に若い世代中心にされていっている気がします。今まで通りにその場での所謂「密な空間」を作ってこそだと思っていたやり方が根本から覆され、主にインターネットを使用したプライベートな楽しみ方も選択肢の一つとして数えられるようになると思います。

A5. 音楽を鳴らそうとしている場所は、形は違えどもなんとか音楽を鳴らし届けようとしています。その場で鳴る音とそうでない音の間には絶対的な平行線があります。でも、それをまた別の形として捉え、そのブラッシュアップのために日々機材に投資し、かつ技術の向上を狙えていると実感しています。ぜひ変わらず我々が届けようとする音と音楽に耳を傾けてください。

UrBANGUILD

京都市中京区材木町181-2 ニュー京都ビル3F
TEL:075-212-1125
http://urbanguild.net/
https://urbanguild.stores.jp/
https://www.instagram.com/urbanguild/
https://twitter.com/Ur_BANGUILD

A1. 外国人のお客さんが元から多いというのもあり、2月から既に影響が出始め、3月はイヴェントが半減し、4月、5月は全滅、6月から少しずつではありますが、出来る事から自主企画のイヴェントを始めております。ですがイヴェントの持ち込み、特に音楽イヴェントの持ち込みが、現時点でも回復していない状況です。

A2. 勿論、コロナ感染防止、クラスターを起こさせないという店舗としてのプレッシャーはございますが、それを恐れて何もしないというのは、店舗としての存在意義を否定する事に変わりなく、またコロナ感染のメカニズムに関しては(コロナそれ自身に関しても)、色んな説があるのでウチに出入りするアーティスト、お客さんもそれぞれの考えが違い、感染防止策を講じつつも、どこまでお願いし、どこまで強制出来るのか?
シチュエーションも毎回異なるので、そこでの店としての対応がとても難しいと感じております。
初期の段階でライヴハウスで感染が起きた事により、業界全体に影響を及ぼす事や、そして世間の偏見と如何に対峙するかも大きな課題かと思います。

A3. 4月に飲食営業も出来なくなり、オリジナルマスクを製作し、物販サイトを立ち上げて販売を行ったり、料理のテイクアウト営業を始めたりと、今までとは違う収益のあげ方を模索しました。イヴェント再開後は、補助金、助成金を大いに活用し、客数制限のあるなか、出演者にも、店にも負担がかからない様に努めています。

A4. コロナ以前から既に始まっていた事ですが、デジタル化と、特に日本では少子化が加速していく事に対して、変わらざるをえないと思います。それらの影響に対しては、それぞれの店舗の個性が出てくる事によって、今まで以上に多様化するのではないかと思っています。

A5. 支援していただいたり、足を運んでいただく事自体は凄く助かりますし有難いのですが、非日常な時間や体験を提供する側の立場からすれば、この時期だからこそ、(ご無理のない程度に)お越しいただき、それらを思いっきり楽しんで、価値を見出し、共有していただければなと思っております。

coffee house 拾得

京都市上京区大宮通下立売下ル菱屋町815
TEL:075-841-1691
http://www2.odn.ne.jp/jittoku/
https://jittokukyoto.thebase.in/

A1. 3月までは何とか休まずにライブを平常通りに進めてきましたが国の緊急事態宣言発令に従い4月2日より全面休業を決心しました。その後、ネットによる動画配信やドリンクチケット、着てくると前売り券扱いになる「前売券Tシャツ」を発売、好評でした。バンドからも支援CDなどの寄付もいただいて守られていることの喜びに志を新たにされました。

各方面の支援対策も申し込み被害が最小限になるように努めています。が、やはり働いてくれているバイトの従業員さんたちには苦しい日々が続いている現実は確実にありそれぞれの家族に助けられてもらっている状態だと思います。

6月半ばより時短営業で入場を30～40名にして月の半分くらいはライブと営業を再開しました。しかし、ソーシャルディスタンスや、パーティライクな集いを避けるよう協力を求めることには限界があり常にひやひやしながらの毎日で売り上げも店を開けない方がましな程度しかない状態です。ですが動きを止めるとさび付くだけだとの思いで今はただ我慢して進んでいこうと思っています。

A2. 人間同士のつながりや支えあいをこのウイルスが攻撃してきたことです。分断や独断がひろまり結果ばかりが問われてしまう傾向は過程をみんなで楽しむということをさせまいとしていますね。

A3. 動画チャンネルを公開したり、ライブ配信などやってみましたがやはり「今、ここで」起こっていることとは程遠くてどんなに今しがたの発信だとしても過去の映像にしかすぎず現実のライブの臨場感や音質には及ばないと判明しました。肝心の音楽そのものへのかかわりがおろそかにならぬようたとえこれから2～3年かかろうともわき目を振らずライブ本来の姿を維持してゆきたいです。

A4. 今までこうありたいとか展望らしき物は一切持たずにやってきました。ラッキーでした。これからも好きなことを続けられたらラッキーです。

A5. いい音で音楽を聴いてください。MP3と生音の違いを忘れずに!

C

A1. イベントの中止・延期による売上激減。4月～6月は休業。
7月から営業再開。9月頃から徐々に関西圏外からもアーティストが来てくれるようになった。

A2. ライブハウスが世間的に安心のおける場所と認知されることではないでしょうか。
コロナ禍初期にクラスター報道があり、世間的に感染しやすい場所と危険視されてしまい客足が遠ざかってしまったので、可能性はゼロにはならずとも安心してライブをし、楽しめるように引き続き細心の注意を払ってやっていきます。

磔磔

A1. 4月、5月は自粛により休業、6月も営業できたのは3日ほどでした。7月以降も以前より少ない日数、ガイドラインに沿った少ないキャパで営業しております。

A2. この状況の中で、ガイドラインを守って感染対策を取りつつ、新しいことに取り組んで行けるかどうか。

A3. カメラ11台による有料配信を行っております。少しでもいい映像・音質で届けられるよう、スタッフ同士で試行錯誤しています。最近は「磔磔の配信は音と映像がいい」と仰っていただけることも多くなりました。

A4. ライブハウスは出演者とお客様のためにできる限りの感染対策を取っています。その中で面白いことを探し、続けていく時期かと思います。

A5. 必要以上に怖がらず、でも無理をせず、感染対策をしっかりして遊びに来てください。
また、配信には配信の楽しみ方もありますので、ライブに来られない方だけでなく来られた方も、チェックしてみるのもいいかと思います。

京都市下京区富小路仏光寺下ル
TEL:075-351-1321
http://www.geisya.or.jp/~takutaku/
http://twitter.com/kyoto_takutaku

KYOTO MUSE

京都市下京区四条通柳馬場西入ミューズ389
TEL:075-223-0389
http://muse-live.com/kyoto/
https://twitter.com/kyotomuse

A3. 配信ライブや、Bar営業はもちろん、他にはイベント、バンドグッズをKYOTO MUSEでやるというポップアップストア的なことや他会場でのライブをライブ配信でスクリーンで見るというイベント、KYOTO MUSEにもよく来て下さるカメラマンさんの写真展など、この状況下でライブには来れないけどそういうイベントなら足を運べるというお客さんもいらっしゃいました。ライブイベントに限らずライブに関わりそうなことはどんどんやっていきたいです。

A4. ライブハウスとしては感染防止対策などをこれまで通り実施しながらやっていくのですが、ライブをやる側のアーティスト、見る側のお客さんもこれまで通りのやり方や見方とは全く別物の空間になってしまったので、今出来る楽しませ方、楽しみ方、その双方の対応のほうが大変なのかなと思います。

A5. KYOTO MUSEとしては感染防止対策などもガイドラインに沿って実施し、日々イベントも行っておりますので、ライブハウスに行くことが出来る方は自己対策の上、是非足を運んでほしいです。それがライブハウスに人が戻ってくる、アーティストがライブをしやすくなる動きにも繋がると思います。

WORLD KYOTO

京都市下京区真町９７
TEL:075-213-4119
http://world-kyoto.com/
https://www.instagram.com/worldkyoto/
https://twitter.com/world_kyoto

A1. まず夜の街関連という報道により弊社だけではなく木屋町の歓楽街が深刻な状況に陥り、営業することさえ悪という風潮になり、自粛終了後もそのイメージは大きく残り客脚が非常に遠のき、借入やクラウドファンディングをしなければ会社、店舗の存続が無理な状況に陥りました。４月～６月は売上100%ダウン。７月22日から週末のみの再開でしたが単日比較80%ダウンという営業状況が続きました。

A2. 店舗存続と従業員を守ることです。ギリギリの経営状態でもアフターコロナまで継続させることを最大目標に取り組んでおります。また業界のイメージを少しでも打破するために屋外企画などを展開することです。

A3. 既存営業をガイドラインを徹底して100名未満のイベントを実施しつつ、より安心安全性の高い屋外でのイベント企画をガイドラインを徹底しつつ開催を目論んできました。交渉結果として会場を借りられないことも多々でしたが、大阪水上バスのリバークルーズや尾道ベラビスタでの無人島パーティ、フォーチュンガーデン京都のROOFTOPでのパーティ企画を実施してまいりました。それでもスタッフのモチベーションアップとはなりますが、入場制限をしての実施ですので経営の救いとは当然ならずです。

A4. オンラインにシフトされていくことを当初みんな試みていましたが、やはり熱量が伝わりきらないので難しかったです。あり方自体が変わることはないと思っています。なので継続するための金策をスタッフがアイデアを出し合うことが全てだと思っています。それこそ期限付きで休業扱いにして、アルバイトや腕を磨くスクールに行くなども自分は正解に感じています。

A5. ご支援いただけることがありがたいですが、これももうみんなが大変ですので望めることでもないです。コロナに打ち勝った時に今まで以上に熱狂してもらえるように心をぐっとためておいてもらいたいです。音楽やあのエネルギーは絶対に不滅だと思いますし、伝播方法が変わることはないでしょう。

CLUB METRO

京都市左京区川端丸太町下ル下堤町82 恵美須ビルB1F
TEL:075-752-4765
https://www.metro.ne.jp/
https://www.kyotometro.com/
https://www.instagram.com/metro_kyoto/
https://twitter.com/metro_kyoto

A1. 営業自粛要請を受け４月から６月までのほぼ丸々３ヶ月は店を開ける事ができませんでした。７月以降も感染の再拡大の影響は甚大で、決まっていたイベントやライブのキャンセルは現在まで続き厳しい打撃となっています。今年２月に大阪のライブハウスでのクラスター発生があって以降、行政の記者会見や各メディアによる報道では必ず「３密」「不要不急」と「ライブハウス」という言葉がセットで使われ続け、その影響は今も深刻に続いています。もちろん箱だけでなくアーティスト、オーガナイザー、音楽に携わるあらゆる業種の皆さんが、本当に苦しみ、引き裂かれる思いでし

A2. 生の音楽による一体感、非日常の体験をする場所であり、人と人が繋がるコミュニケートの場所であり、そこから生まれる飛躍であったりクリエイティブであったりエネルギーであったりを生み出し交感する場所であったクラブやライブハウス。今回の事の性質上それらポジティブな、私たちがずっと信じてきて追求してきたことが、逆に今の状況下ではネガティブな要素、否定されるべき要素となってしまっているのが本当に辛いです。９月以降は状況も少しずつは変化してきていて、それに併せて、業界のガイドラインもリスク評価を更新し改定されたりするなどの方向にも進みつつあるのですが、ルール以上に世論や社会のムードによる影響が大きく、時間をかけて取り戻していくしかないことを痛感しています。

A3. 実店舗の営業が不可能になってしまった４月より配信にチャレンジしたり、デザイナーやアーティストの方々にご協力いただいてTシャツなどのネットショップを立ち上げたり、何とかこの場所を残すべく、今できる目の前の事に取り組んでいます。また皆様にはクラウドファンディングやアーティスト有志の方々59組による支援コンピレーションアルバムなどなど本当に沢山のご支援、ご声援をいただいています。

A4. 現在、ライブハウスやクラブは他の業種以上に感染防止対策を徹底していると思います。刻々と変わる状況や行政のガイドラインを踏まえ、しっかりした対策をとり続けると同時に、やはり生の音楽体験を少しずつでも取り戻していくことが大事だと考えています。

A5. コロナ対策などでご不便なお願いをさせていただいているなか、マスク着用や検温、手指消毒や保健所のアプリ登録など、場所を守る為のご協力をしていただいていて、本当にありがたく思っております。そして本当に様々な形で、沢山のご支援や温かい声援をいただきました。各ベニューそれぞれに何とか場所を存続させるべく、音楽のシーンを守るべく、再出発に向けて少しずつ何とか頑張っていますので、その動向を見続けていただけたらうれしいです。

Chambers

A1. ２月頃からお客さんの減少が始まり、色々なコンテンツを入れて苦戦苦闘しておりましたが、３月終わり頃には通常の半分以下の入場人数になっていきました。それに伴い、４月１日～６月３日まで緊急事態宣言とお客さんの減少により営業を休止し、６月４日より営業再開いたしました。

A2. これまで経験したことのないCOVID-19というウイルスにどう闘っていけばいいのか、何が正解で不正解なのか不明な状態で、三密を避けることが感染を防ぐ方法だと注意喚起されていましたが、ナイトクラブにとって密にならない状況では、お客様に楽しんでもらうことが難しく、現状一番の課題と考えております。

A3. 営業自粛中は“音を止めない”というテーマを掲げ、京都のヒップホップアーティストを始め、さまざまなDJのインスタライブの配信や、その他にもオリジナルグッズの販売もしておりました。またこのコロナ禍で弊社系列の飲食店がほぼ閉店しており、何かできないかと2017年ごろから発足している木屋町飲食グループ「KiyaLuv」が中心となり、飲食店の皆さんからアンケートを集め、門川京都市長を表敬訪問し木屋町の状況のご報告と未来についてお話いたしました。

A4. 私たちはこのウィルスにとって相性の悪い業種ではありますが、音楽というカルチャーが今日まで続いていることを信じ、伝え方や表現の仕方を変化させさらに成熟させながら、“音を止めない”営業を続けていきたいと考えております。

A5. ウイルスに立ち向かうための最低限のルールを守っていただくことと、皆さんが正しい知識をもって発信していただくことでしょうか？　答えの出ていない敵と共に戦いましょう。

京都市中京区河原町三条下ル山崎町236 六角テラスビル2F
TEL:075-204-6762
http://chambers-kyoto.com/
https://twitter.com/chamberskyoto
https://www.facebook.com/kyotochambers

今できる形で、音楽の火を絶やさないでいたい

ライブハウスやクラブと同じく、ミュージシャンもまたコロナによって多大な影響を受けています。彼らは今どんなことを考え、どんな取り組みを行っているのでしょうか。京都出身の兄弟ユニット・キセルに、ミュージシャンの視点から「コロナ禍の今、ライブハウスやクラブのために私たちができること」というテーマで語っていただきました。

（インタビュー・文：土門蘭）

コロナ禍で見つけたもうひとつの可能性

―コロナの影響で、音楽活動にはどんな変化が出ましたか？

辻村豪文（以下・豪）：一番の変化はライブができなくなったこと、それに尽きますね。今年3月頭のライブが中止になって以降、決まっていた屋内ライブは全部中止になりました。それからは野外ライブと配信ライブのみ。今後も、ライブハウスでのライブは決まっていません。もともと毎月4、5本やっていたライブがなくなると、さすがに生活のバランスが崩れて、自分の精神衛生上にも影響が出るものだなと気づきましたね。

―それは大きな変化ですよね……。そんななかでミュージシャンとしての課題は何だと思いますか？

豪：自分ができることは、単純ですけどただ音楽を続けることだと思ってます。配信ライブでも何でも、今できる形で音楽の火を絶やさないことかなと。音楽ってなくても生きていけるものだけど、僕はやっぱりあった方がいいものだと思うんです。だからこそ、人が「聴きたい」と思うものを作りたいし、音楽にしがみついていい曲を作らなくちゃって思ってます。コロナになってからハードルが上がった気がする部分ですね。

辻村友晴（以下・友）：ライブをする側としては人に集まってもらうわけだから、悩ましいところもあります。密集しないとか、声をあまり出さないとかは今や当然となってきてますが、ライブができる状況を増やしたり維持するためにも、そういったガイドラインや共通意識は、特殊な状況が常態化していくなかだからこそ大事な課題のひとつですよね。

―コロナ禍で新しく取り組まれていることについても、教えていただけますか。

豪：先ほども出ましたけど、配信ライブを始めたくらいですかね。「寝言の時間」っていう僕の弾き語りと、弟も一緒にやっているバンド・yamomoの配信です。

yamomoは、コロナがきっかけで結成したバンドです。メンバーは僕と弟、YOURSONG ISGOODのモーリスさん、グッドラックヘイワの卓史くんの4人なんですけど、もともとはみんな同じイベントに出る予定だったんです。それがコロナで中止になってしまって、「じゃあ一緒に何かやろうか」と。卓史くんからの提案で、「遠隔で音合わせができるソフトがあるから試してみよう」って、そんな経緯で始まった感じです。

メンバーそれぞれ在宅しながら、オンラインで音合わせをするっていう、ほんと近未来みたいなことが今はできるようになっていて。コロナをきっかけに、遠隔で音楽が作れてリハもできるってことを知って、それはそれで可能性を感じたりはします。特に僕は今長野に住んでいるので、こういう技術を通して、東京だけでなく地方にも音楽の可能性が広がっていくといいなと思います。

とは言え、やっぱり配信ライブと普通のライブは全然違うものです。目の前にお客さんがいないっていう状態は何を持ってしても埋めがたいと思います。なので代替というよりは別の可能性を持つ方法として、火を絶やさないためにも続けていきたいと思っています。

「公共の場」としてのライブハウスやクラブ

―今後、ライブハウスやクラブのあり方はどう変化していくと思いますか？

豪：現状では来場人数を減らして、その分配信ライブを行うっていうのが増えていくのかなと思います。配信でも売上が賄われるならそれはいいことだとは思うのですが……。

ただ、人が多くいる中で遊んだり踊ったりするときの気持ち良さに飢えている人って、今いっぱいいると思うんですよ。この前ライブハウスで収録があって、久々にデカい音で音楽を浴びる感じを味わったんですけど、やっぱりすごく楽しくて気持ち良かったんですよね。それは紛れもなくライブハウスの醍醐味だなと改めて再確認しました。

反対に「今までライブよく行ってたけど、なかったらなかったで大丈夫やな」って慣れてきている人もいるのか

側面もあると思っていて。たとえば移住を募るような地方ならではの個性的な場所から、アーティストを呼んで都市部に発信すれば、収益も増えるし町興しの一環にもできるんじゃないかとか。実際この期間中にそう言ってる地方在住の人も何人かいて。

友：そういう意味でも、ライブハウスやクラブは「街の文化」なので、行政の政策なしには語れへんと思いますね。音楽ができる場所というのが、街にとってどういう役割を持っていて、どういう人や文化を育てるのか。そういうことを考えて、街全体で守っていけたらいいですよね。

豪：やっぱり民間だけだと限度があると思うんです。みんな自助努力はすごくしているだろうけれど、その先は社会の問題で。そもそもライブハウスやクラブって「公共の場」でもあって、居場所やエネルギー発散の場にしている人も多くいるんですよね。だからそこがなくなると街のバランスが崩れて、音楽に興味あるなしに関わらずみんなの問題になると思う。ライブハウスやクラブが閉店の危機に陥っているときに、「コロナで運が悪かった」とか「努力が足りない」って話にするんじゃなくて、半分は公共の場として考えて、みんなで守らなくてはいけないと思いますね。

「音楽を聴きたい」という欲を持ち続けてほしい

ーミュージシャンとして、ライブハウスやクラブのために今何ができると思いますか？

豪：具体的には支援グッズを買ったり、ドネーション企画に参加したり楽曲提供したり……それくらいしかできることないんですけど。ミュージシャンとしてはライブハウスがなくなると演奏する場所がなくなるし、これまでお世話になってきたので、力になれることは全部したいなと思っています。でもやっぱり一番大事なのは、自分たちが「音楽をやり続ける」ってことでしょうね。

友：僕も同じことを思っていますね。ライブハウスもミュージシャンも、お互いがあるからやっていけてる。だからできることはしていきたいなと。あと、こういう問題ってもともと音楽に興味がある人にしか伝わりにくかったりするんですよね。たとえば僕は保育園に子供を預けているんですけど、そこにいるお母さん方のなかにはライブに行かない人も多くいると思うんです。だけど雑談の中で、自分の仕事や音楽業界の現状について話すことで、伝わることもあると思うから。そういうふうにいろんな人に現状を知ってもらうことも大事だなって思います。

ーまさに先ほどの「ライブハウスは公共の場」という認識が伝わるといいですよね。一方で、今リスナーにできることは何だと思いますか？

豪：リスナーの方々は、もうすでにいろんなドネーションに参加したり、配信ライブを観たり、十分支えてくださっていると思うんです。だから、ただ「これからも音楽を聴いてほしい」ってことだけですかね。

友：僕もそうです。音楽をずっと好きでいてほしい、「音楽を聴きたい」という欲を持ち続けてほしい。そのために自分たちも活動を絶やさないでいようと思うので。

ーお二人の話を聞いていて、コロナでできない尽くしのなかでも、音楽の可能性は広げられているんだなと感じました。

豪：僕はコロナが収束したとしても、全部が元に戻るとは思っていないんです。もちろん音楽業界だけの話でなくて。だから今は、この先も続けていくためのみんなで考える準備期間だと思ってます。今後どうしていくべきか世界中の誰も答えは持ってないけど、今できることに挑戦して可能性を広げていきながら、考えたり悩んだりして続けていきたいし、その上でこのコロナで得た経験がいい教訓になる日が来ればいいなと思ってます。

キセル http://www.nidan-bed.com/

辻村豪文と辻村友晴による兄弟ユニット。カセットMTR、リズムボックス、サンプラー、ミュージカル ソウ等を使用しつつ、浮遊感あふれる独自のファンタジックな音楽を展開中。スピードスター在籍時に４枚のフルアルバム、2006年カクバリズム移籍後も「magic hour」「凪」「SUKIMA MUSICS」「明るい幻」「The Blue Hour」など、アルバムと10インチレコードやライブ会場限定のEPなど精力的にリリース。どの作品も多くの音楽好きを唸らす名盤となっており、ロングセラーを続けている。毎年の大型野外フェスへの出演や、フランス・韓国・台湾でのライブ、ジェシ・ハリスとの全国ツアー、そして恒例のワンマンライブをリキッドルームや赤坂ブリッツ、日比谷野音などで行っている。2019年、結成20周年を記念したベスト盤『Kicell's Best 2008-2019』をリリースし、日比谷野外大音楽堂での3度目のワンマンを成功させた素敵な2人組である。

編集後記

2020年の年明けから始まったコロナ禍という歴史的状況のなかで、一音楽好きとして自分にできることはなんだろうと考えていた時にYahoo! ネット募金の担当者さんからお話をいただき、そこから動き始めました。半年ほどの準備期間を経て、ようやく一般社団法人の設立と募金活動をスタートさせます。これがどんな未来につながっていくのか、いやそもそもこれで何かを未来へつなげていくことができるのか、今はまだまったくわかりませんが、とにかく自分たちにできることを精一杯やってみようと思います。これはまず最初のステップです。

そして音読自身、約3年ぶりの発行です。大変永らくお待たせしました。とても楽しんで読んでいただける内容ではないとは思いますが、少しでも多くの方へ「今」の音楽の現場の声が届くことを願っています。そしてどうかこの先も音楽が自由に鳴り続くことができますように。

また今回の募金活動スタートにあたり、たくさんの方に助言やご協力をいただきました。Yahoo! 関係者の皆様、音楽関係者の皆様、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

田中郁后

今年は大きな変化の一年でした。私自身も仕事上でいろいろ影響を受け、「そもそも『書く』とは何なのか？」という問いにぶつかったのですが、コロナは強制的にそもそもを考え直させられる機会だったように思います。「そもそもライブハウスやクラブはどういう場所なのか？」。私にとっては、息が詰まりそうなときでも自分らしく深呼吸できる場所だなと、今号を通して改めて思いました。みなさんにとっては、どういう場所でしょうか？

土門蘭

フォトグラファーとしてライブを撮ることが日常にあった私にとって、現場を守ってくれる人たちのリアルな心情を今回の取材を通じて感じることができました。そこで自分にできることは？という問いに、自分なりのアクションをこれからもしていきたいと思います。

岡安いつ美

編集長·デザイン　田中郁后
副編集長·ライティング　土門蘭
企画·編集　音読編集部
スタッフ　岡安いつ美 南日久志 船田かおり 宮井真実子
http://www.otoyomi.com

SPECIAL THANKS
鈴木哲也　中本幸一　池田航成
酒井慎司　浜田淳　前田展広

発行元　株式会社翠灯舎
〒604-8261
京都市中京区式阿弥町130
SHIKIAMI CONCON No.8
http://www.suitosha.co.jp

WANTED

フリーペーパー『音読』は東京·大阪·名古屋·京都などのカフェ·ライブハウス·書店·イベントスペース·CDショップなどに設置しています。設置していただける場所を随時募集していますので、設置ご希望の方はご連絡ください。
→info@otoyomi.com

livehouse nano

nano ではほぼ毎夜 Youtube チャンネルにおいてライブを配信しております。ぜひご覧になってください。ご覧になられたら、ぜひ投げ銭をよろしくお願いします。

配信URL
https://www.youtube.com/c/livehousenanosince2004

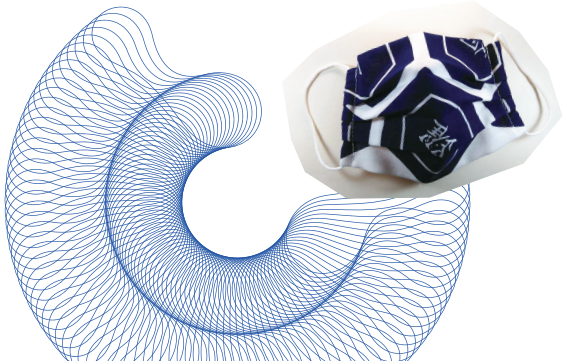
投げ銭送金先
STORES
https://livehousenano.stores.jp
Paypalme
https://www.paypal.me/nanosince2004
その他方法（pring アプリ内送金、銀行振込）
http://livehouse-nano.com/streaming.html

また、オフィシャル web ショップにおいて、「ライブハウスのグッズ」という範疇を超えたクオリティの品を販売しております。ぜひ覗いてみてください。

ショップ URL
http://livehouse.thebase.in

UrBANGUILD

Ur マスク、まだ在庫ございます！
https://urbanguild.stores.jp/



募金以外にもアクションが可能です。ぜひ各店のWEBサイトやSNSをチェックしてください。

磔磔

WEB サイトやツイッターにてスケジュールを載せておりますので、チェックをお願いします。
http://www.geisya.or.jp/~takutaku/
http://twitter.com/kyoto_takutaku

coffee house 拾得

支援サイトを設けていますのでご利用ください。
https://jittokukyoto.thebase.in/

KYOTO MUSE

チェックしていただきたいです。
http://muse-live.com/kyoto/
https://twitter.com/kyotomuse

CLUB METRO

9月25日に業界のガイドラインが3か月振りに改定されて、徐々にではありますが、ガイドラインに沿った形での対策を取った上での営業を徐々に再開して行ってます。
https://www.metro.ne.jp/

Chambers

京都木屋町三条にある Chambersを今後もよろしくお願いいたします。
http://chambers-kyoto.com/

音読 おとよみ 15
音楽をずっと好きでいてほしい、
「音楽を聴きたい」という欲を持ち続けてほしい。
不定期発行
2020年12月31日発行
編集・発行 音読編集部
http://www.otoyomi.com
info@otoyomi.com
© 2020 Otoyomi Editorial Department

音楽の未来が生まれ続ける京都のローカルシーンを応援しよう！

#京都音楽シーン救済プロジェクト

「コロナ禍」という出口の見えないトンネルの中にあるライブハウス・クラブの力になるために

一般社団法人表現支援協会

Yahoo!ネット募金から、支援していただけます。
どんなに小さな力でも構いません。みなさんの力を貸してください。
https://donation.yahoo.co.jp/detail/5295001/

T-POINTは1ポイントから、他にもクレジットカードなどがご使用いただけます。

＼アーティストのみなさんからも応援メッセージをいただきました／

10-FEET TAKUMA氏

FPM 田中知之氏

キセル